



東京 2020 パラリンピック ボッチャ団体銅メダル獲得

羽曳野市在住 中村 拓海 選手

9月4日に行われたパラリンピックボッチャ団体戦で羽曳野市在住の中村拓海さんが見事銅メダルを獲得されました。

9月30日に行われた山入端市長とのリモート形式による報告会の様子をお届けします。

山入端:この度は、銅メダルの獲得、誠におめでとうございます。銅メダルの獲得が決まった瞬間、私も思わずガッツポーズをしました。気持ちの入った試合を観戦させていただきありがとうございました。市のFacebookでも発信し、市民一丸となって応援させていただきました。見事銅メダルを勝ち取られた気持ちをお聞かせいただけますか。

中村:僕自身初めてのパラリンピックでしたが、個人戦は緊張で思うような結果を残すことができず、悔しい思いをしました。団体戦では気持ちを切り替えることができ、心強い仲間とともに、接戦が続きましたが、銅メダルを獲得することができました。このような結果となったのは日ごろから応援いただいている皆様のおかげだと思っていますので、本当に感謝しています。ありがとうございました。



山入端:昨年11月5日に、市役所にお越しいただき、メダルを狙っていくというお話をいただきました。本当に有言実行されて素晴らしいなと思っております。パラリンピックが始まる前の調整は、大変難しかったと思いますが、どのようなことに気をつけて臨まれましたでしょうか。

中村:コロナ禍ということで本当に感染対策に気をつけながら、できる限り多くの時間をとって練習をしていました。本当に基本的なところであったり、どの戦術でいくか、自分が点数を取るためにはどうしていかなければいけないかという細かいところまで、時間をかけて練習してきました。



山入端：銅メダルをかけた3位決定戦、予選リーグを接戦で勝利したポルトガルとの対戦ですが、どのようなお気持ちでしたでしょうか。

中村：パラリンピックという舞台は、本当に強い選手が出てくるので、チームとしてはまず1戦1戦大事に戦っていくという気持ちで臨みました。接戦にはなってくるだろうと予想しており、やはり苦しい展開ではありましたが、思い切ったプレーをすること、自信を持ってプレーすることを心がけていました。そこでなんとか勝ちきれたということが本当に嬉しかったです。

山入端：勝利が決定し、銅メダル獲得が決まった瞬間のお気持ちを教えてください。

中村：予選リーグから苦しい展開が続いていて、ハラハラドキドキした試合でしたが、最後に銅メダルを獲得することができて本当にほっとしました。同時にこのチームでつらいときも一緒に練習してきた良かったなと思いました。

山入端：今回ボッチャ日本代表の皆様の活躍があって、テレビでも大きく取り上げられましたし、ボッチャをやりたいと言う声もたくさん耳にするようになりました。こうした形でボッチャの輪が広がっていけばいいですね。



9月末まで市庁舎に
懸垂幕を設置しました▶



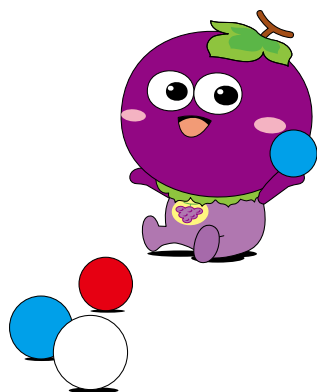
山入端：この先も大会が続きます。また2024年にはパラリンピックパリ大会もあると思いますが今後の抱負を最後にお聞かせいただけますか。

中村：今回は個人戦で結果を残すことができなくて本当に悔しい思いをしたので、3年後のパリでは今回の反省をしっかりと生かして3年間練習し、メダルに近づけるような結果を残したいと思います。

山入端：将来性のある中村選手なので、私も大変期待しております。これからもけがのないよう練習に励み、素晴らしい成績を残していただきたいと思います。

中村選手本当におめでとうございます！

今後も一層のご活躍をお祈りしております！



中村 拓海 選手 プロフィール

1998年生まれ。脳性まひによる障害があり、小学6年生の時からボッチャを始める。今後の活躍が期待される若手有望選手。

主な成績

2018年 世界選手権 個人5位
2019年 日本選手権 個人1位

